

case
06

熊本県立高森高等学校

高森町高森1557

茅の新しい価値を見出し
地域の草原の現状を学ぶ

毎年1年生は総合的な探究の時間において、「探究基礎講座」として地域の魅力について学んでいます。今年度は、茅を用いた草原資源の利用について学び、草原維持に係る探究活動に取り組みました。また、ランプシェード作りや「草原キッズにゅーす」めりえコンテスト用イラストの作成を通し、草原維持に向けた実践活動も行いました。

ワークショップ

10月30日(水)、1年生を対象に外部講師を招いて茅を使用したワークショップを行いました。

はじめに、茅についての講話が行われ、阿蘇の茅を茅葺き屋根の材料等として販売していることや、茅が持つ可能性や産業化への取り組みについてお話がありました。景観維持のための野焼きを存続していくためにも、



茅の価値や利益を生み出すための仕組みを作ることが、野焼きを存続する目的になり、草原維持にもつながるというお話を、生徒たちは真剣に聞いていました。

講話のあとは、茅を使ったランプシェード作りを体験しました。好みの長さに茅を揃える際、カッターやハサミでは簡単に切ることができず苦戦している様子も見られました。最後には思い思いのランプシェードを完成させることができました。高校生ならではの

新しい視点は、さまざまな阿蘇の価値に繋がることが期待される時間となりました。生徒からは「草原は阿蘇の魅力。景観を守るための努力がすごいと思った」といった声が聞かれました。



「草原キッズにゅーす」のめりえコンテスト用イラスト作成

子どもたちに阿蘇の草原に興味をもってもらうきっかけづくりとして年1回発行され、阿蘇郡市内の小学校に配布されている「草原キッズにゅーす(阿蘇草原再生協議会草原環境学習小委員会発行)」。



昨年度に引き続き、今年度もめりえコンテスト用のイラストを作成しました。

学習発表

12月21日(土)、グランメッセ熊本で行われた「県立高校学びの祭典」で、学んだことをポスターにまとめて発表しました。来場された方々へ、高森高校での取り組みや阿蘇の魅力発信を行いました。

case
07

熊本県立阿蘇中央高等学校

阿蘇市一の宮町宮地4131(阿蘇清峰校舎)

阿蘇の「豊かさ」を追求
あか牛の活用・メニュー開発
と草原維持活動

普段から「阿蘇学」と称した総合的な探究の時間に阿蘇ジオパークと地域農業の営みについて学習しています。草原維持活動やあか牛の育成、商品開発などの視点から、様々な実習を通して、豊かな阿蘇の資源の維持・有効活用について改めて考えることができました。

ソーセージづくり

農業食品科の2・3年生は、あか牛を使用したフランクフルトソーセージづくりに取り組みました。11月15日(金)には、基本的なノーマルタイプと校内の畑で収穫したバジルを加えた2種類の肉だねの仕込みを行い、続く11月22日(金)には、充てん機を使って腸詰め工程へと進みました。手びねりを終えてくん煙機に掛けられたソーセージは、完成後、生徒や学校関係者、地域の飲食店などにアンケートとともに配布されました。高評価を得た味のソーセージが、次年度の活動で製造・販売される予定です。



あか牛メニューの考案と調理

農業食品科の2年生は、あか牛肉の消費拡大の取り組みとして、あか牛肉を使用したレシピの開発を毎年行っています。今年は、ハンバーグステーキ・サンドカツ・ビビンバ・スタミナ丼・甘辛焼き肉うどんの5品目のメニューを考案しました。あか牛肉の特徴や調理のコツも事前に学習し、12月5日(木)は5班に分かれて調理実習を行いました。試食後は「家族にも作ってあげたい」「あか牛おいしい!」などの声が聞かれました。



草原維持活動

グリーン環境科では、毎年3月に行われる野焼き実習に向けて、輪地切り・輪地焼きといった野焼きの準備を行っています。今年度は、9月12日(木)に輪地切りを、10月10日(木)に輪地焼きを行いました。学習した内容を、12月21日(土)の「県立高校学びの祭典」でポスターにまとめて発表しました。



あか牛の育成

農業食品科では、あか牛の人工授精から出産、飼育、放牧、出荷まで一貫した実習を行っています。



令和6年度

阿蘇世界文化遺産
教育モデル校事業
活動報告

「阿蘇」は、活発な火山活動により形成された広大なカルデラとその周辺に6万人もの人々の暮らしが営まれている、世界にも例をみない地域です。

その火山と共生してきた阿蘇の人々が長い年月をかけて守り継いできた美しく雄大な景観を後世にわたって維持していくため、熊本県と阿蘇都市7市町村は、世界文化遺産登録を目指した取り組みを進めています。

阿蘇世界文化遺産
教育モデル校事業とは?

将来の阿蘇地域の担い手である子ども達に、世界文化遺産登録を目指す阿蘇の自然や文化等の魅力に気付いてもらうため、阿蘇地域においてモデル校(中・高)を選定し、学校教育の一環としてさまざまな活動に取り組んでいただく事業です。令和6年度は7つの学校がモデル校に選ばれ、体験学習や発表を行いました。

case
01

阿蘇市立阿蘇中学校

阿蘇市内牧609

多角的な学習を
通して、主体的に学ぶ

「地域を知る」をテーマに、出前講座や火消し棒作り体験、SDGsに関する課題のプレゼン授業など、多角的な学習を積み重ねました。世界文化遺産を目指す阿蘇の価値・魅力についての理解がさらに深まるよう、生徒自らが学習課題を設定し、主体的な学びを展開しました。

出前講座

1月21日(火)、校内で草原維持に長年携わる地域の方々を招き、草原と野焼き、農業、牛の放牧との関係について講話を受けました。生徒たちは「野焼きに必要な人数は?」「ボラン

ティアを募る方法は?」「中学生にできることは?」など積極的に質問し、熱心に理解を深めていました。

続いて行われた野焼き用の火消し棒作り体験では、生徒たちが2人1組で協力して1本を作成しました。ボランティアの指導を受けなが

ら約3メートルの棒を完成させた後、屋外で火消しのレクチャーを受けました。

生徒からは「私たちが大人になっても、今と同じ広さの草原が守られてほしい」という声上がるなど、草原の役割や価値、阿蘇の魅力について深く学ぶことができました。



学習発表

3月18日(火)、阿蘇中学校にて学習発表会を行いました。出前講座等で協力いただいた地域の方々を招き、各クラスの代表2名ずつ、計6名がこれまでの学習の内容を発表しまし

た。発表を通して、これまでの学習を再確認するとともに、自分たちが暮らす地域「ふるさと」に対する誇りを持つことにつなげることができました。



case
02

南阿蘇村立南阿蘇中学校

南阿蘇村河陽3645

体験を通して、阿蘇の価値や
魅力に気付く

阿蘇地域を守る担い手となるために、現地学習や体験活動を通して、阿蘇の価値や魅力を再確認しました。茅葺き屋根職人による実演を交えての体験では、阿蘇の新たな価値を知ることができ、自分たちが暮らす地域についてあらためて考えるきっかけになりました。

現 地 学 習

9月13日(金)、1年生が阿蘇火山博物館と阿蘇草原保全活動センターを訪れ、現地学習を行いました。

午前中は、阿蘇火山博物館内を見学。クラスごとに分かれ、学芸員の案内のもと、館内の展示物や映像、実験を通して、阿蘇の地形やその成り立ち、歴史を学習しました。風船と小麦粉を用いた、火山の成り立ちを学習する実



験では、楽しみながら火山の仕組みを学ぶことができました。



午後は、阿蘇草原保全活動センターへ移動し、阿蘇の草原について学習しました。阿蘇草原保全活動センターの職員による講話では、阿蘇の草原の歴史や役割、人々の営みと草原の密接な関係について話を聞き、草原を維持していく難しさや阿蘇の地域課題についての



知識を広げました。

講話のあとは、地元の茅職人を講師として、阿蘇の茅を使い茅葺き屋根を組む体験を行いました。茅を並べて長さを揃えたり、紐で組み上げたり、「男結び」と呼ばれる茅の基本的な結び方を教えてもらったり、貴重な体験をすることができました。生徒からは「初めて材料としての茅に触った」「茅葺き屋根の仕組みが分かった」等の声が聞かれるなど、阿蘇の魅力にあらためて気付くことができました。

case
03

小国町立小国中学校

小国町大字宮原200-1

地域の自然と歴史にふれ
守り続けたい気持ちを醸成

事前学習で火山の成り立ちを学んでから、国造神社や草千里、日本リモナイトなどを見学しました。阿蘇の歴史・自然・火山の成り立ちを深く学ぶことによって、地元の魅力や課題について考える機会、さらにはふるさと阿蘇の大切さを再認識するきっかけになりました。

事 前 学 習

10月23日(水)、小国中学校にて1年生が事前学習を行いました。小麦粉を土に、風船をマグマに見立てた火山の成り立ちを学習する実験を行い、その仕組みを学ぶことができました。



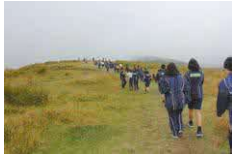
現 地 学 習

10月28日(月)、事前学習での学習をさらに深めるために、実践的な学習として現地学習を行いました。はじめに国造神



社を訪れ、宮司から、かつての巨木(手野の大杉)や熊本地震で被害を受けた拝殿の改良復旧について説明を受けました。「みんなの力や想いが長い間つながって、神社は守られてきました」などの話に真剣に耳を傾ける生徒たち。「普段は入れない拝殿で知らない話を聞けてうれしかった」という感想が聞かれました。

中岳火口見学は、火山ガスの影響で中止となったため、草千里ヶ浜へ移動。散策中には、英語を使って外国人観光客と交流する生徒の姿もみられました。



最後の訪問地、日本リモナイトでは、阿蘇の火山活動と関連する鉱物「リモナイト」(阿蘇黄土)について学びました。採掘手順を見学した後、試飲や加熱・消臭実験を体験。「阿蘇のパワーを感じました」とお礼を言う生徒の姿もみられ、一日を通し、地域の歴史や自然の特徴を深く体感できた様子でした。



発 表 会

1月28日(火)、まとめ学習として、3つの班が「リモナイト」「阿蘇のカルデラ」「世界遺産」について発表を行いました。発表では、動画や音楽、スライドのエフェクトなどの工夫が凝らされており、現地学習での学びや気付きをわかりやすく説明していました。また、「阿蘇の大切なものを次の世代につなげていけるよう守っていきたい」と意欲を示す班もありました。

case
04

南小国町立南小国中学校

南小国町赤馬場1833

自然と農業の循環を知り
生活との関わりを考える

第1学年での阿蘇に関するさまざまな学びを基礎に、2年生となった今年度は、阿蘇世界文化遺産教育モデル校事業での学習を行いました。あらためて阿蘇の火山や草原の成り立ちについて学習することで、阿蘇をはじめとするさまざまな地域での自然と共生する社会の在り方を考える時間になりました。

現 地 学 習

11月18日(月)、阿蘇草原保全活動センターや草千里を訪れ、阿蘇の自然や草原について現地学習を行いました。1年生の時に阿蘇の大地や成り立ち、農業、草原についての学習を行っていたため、2年生になった今年度は、実際に学んだことを基礎に学習を深めることができました。

はじめに阿蘇の草原に関する映像を見たあと、阿蘇草原保全活動センターの職員やボランティアガイドの案内で、施設内の模型や展示物を見て学習しました。自分たちが住んでいる位置をジオラマで俯瞰的に確認し、カルデラの大きさや阿蘇の自然の豊かさについてあらためて知ることができました。施設内を



見学したあとは、クイズラリーを体験し、館内にあるヒントをたどり、楽しみながら学習を深めました。



後半は、草千里を訪れ、実際に草原を見たり触れたりしながら、阿蘇の雄大さを体感しました。草千里を初めて歩くという生徒もいました。施設内の資料で確認した植物や動物がいないか足元を観察しながら、草千里を散策しました。今、立っている足元にマグマが存在していることがガイドから説明されると思わずジャンプをする生徒もいるなど、身体全体で阿蘇の自然を満喫しました。

case
05

産山村立産山学園

産山村山鹿476

阿蘇の自然・歴史・文化
魅力と価値を五感で再発見

産山学園では第4学年の総合的な学習の時間「うぶやま学」において、産山の草原と自分たちのくらしのつながりについて学習しています。第7学年では理科や社会との関連から、阿蘇全体に視点を広げ、現地での調査活動を通し、自然・歴史・文化の多様な魅力を感じ取ることができました。

現 地 学 習

11月28日(木)、7年生が阿蘇の魅力を再確認するため、現地学習を行いました。

最初に阿蘇火山博物館を訪れ、学芸員の案内のもと、人と草原と生態系の関わりや阿蘇の火山の成り立ちについて学習しました。阿蘇を上から見た図をもとに、自分たちが暮らしている場所はどこかを俯瞰的に確認しました。阿蘇の自然がどこにでもある当たり前のものでないことや、自分の生活圏内にある



ユニークなポイントをぜひ探してほしいといった話がありました。館内見学では、模型やジオラマを通して、火山の成り立ちを学習しました。

後半は日本リモナイトを見学しました。蛇口から出る水を試飲し、リモナイトが含まれていることを確かめたり、リモナイトをフライ



パンで炒めてベンガラを作ったり、臭いのある水にリモナイトを入れて消臭効果を試したりするなど、さまざまな実験を通してリモナイトの価値や可能性を体感することができました。



学習の最後は、内牧にある食堂を訪れ、1日の学びを振り返りながら、あか牛丼を試食しました。

